令和７年度　学校評価アンケート【三者集計】

※令和3年度以降は、Google Formsによるアンケート集約を行っています。

令和7年12月実施

「そう思う」「ある程度そう思う」の相対度数合計値による4段階評価

85%以上　＝A		50%以上70%未満＝C	
70%以上85%未満＝B		50%未満　＝D	
プラス評価	そう思う＋ある程度そう思う	マイナス評価	あまりそう思わない＋そう思わない

	実施人数	実施人数	実施人数
年度	R7	R6	R5
教師	25	25	24
児童	524	543	543
保護者	506	482	509

1　学校生活について

設問	教師	附属小は、子どもたちが楽しく生活でき、誇れる学校である。
	児童	学校へ行くことが、楽しいです。
	保護者	お子さんは、楽しく学校生活を送っていると思います。

	R7教師			R6教師			R5教師			R7児童			R6児童			R5児童			R7保護者			R6保護者			R5保護者		
	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価
そう思う	15	60.0	100.0	20	80.0	100.0	19	79.2	100.0	405	77.3	95.4	375	70.8	92.1	380	70.0	91.4	402	79.4	98.8	377	78.2	98.3	410	80.6	98.2
ある程度そう思う	10	40.0	マイナス評価	5	20.0	マイナス評価	5	20.8	マイナス評価	95	18.1	マイナス評価	113	21.3	マイナス評価	116	21.4	マイナス評価	98	19.4	マイナス評価	97	20.1	マイナス評価	90	17.7	マイナス評価
あまりそう思わない	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	18	3.4	4.6	29	5.5	7.9	26	4.8	8.7	6	1.2	1.2	7	1.5	1.7	7	1.4	1.8
そう思わない	0	0.0		0	0.0		0	0.0		6	1.1		13	2.5		21	3.9		0	0.0		1	0.2		2	0.4	
不明	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価
計	25	100.0	A	25	100.0	A	24	100.0	A	524	100.0	A	530	100.0	A	543	100.0	A	506	100.0	A	482	100.0	A	509	100.0	A

教師・児童・保護者の三者ともにA評価となり、今年度も学校生活に対する高い満足度が維持されている。特に児童の「そう思う」の割合が昨年度より上昇しており、学校生活をより楽しいものとして実感している児童が増えていることがうかがえる。これは、教師・児童・保護者の三者が強い関係性を保ちながら、学校行事や学年・学級での活動を企画・運営してきた成果であると考えられる。一方で、「あまりそう思わない」「そう思わない」と感じている児童も一定数存在している。すべての児童が学校生活に楽しさや満足感をもって過ごせるように、今後も教師一人一人が児童の思いにていねいに寄り添い、安心して学べる環境づくりときめ細かな支援を大切にしていきたい。

2　子どもの自主性や主体性について

設問	教師	子どもの自主性や主体性を育む授業づくりをしている。
	児童	すすんで学習に取り組むことができます。
	保護者	学校は、子どもの自主性や主体性を育む授業づくりの工夫がされていると思います。

	R7教師			R6教師			R5教師			R7児童			R6児童			R5児童			R7保護者			R6保護者			R5保護者		
	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価
そう思う	20	80.0	100.0	21	84.0	100.0	22	91.7	100.0	325	62.0	93.7	267	50.4	89.2	277	50.9	91.1	392	77.5	98.6	375	77.8	98.3	408	80.2	98.6
ある程度そう思う	5	20.0	マイナス評価	4	16.0	マイナス評価	2	8.3	マイナス評価	166	31.7	マイナス評価	206	38.9	マイナス評価	218	40.2	マイナス評価	107	21.1	マイナス評価	99	20.5	マイナス評価	94	18.5	マイナス評価
あまりそう思わない	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	25	4.8	6.3	41	7.7	10.8	34	6.3	8.8	6	1.2	1.4	7	1.5	1.7	6	1.2	1.2
そう思わない	0	0.0		0	0.0		0	0.0		8	1.5		16	3.0		14	2.6		1	0.2		1	0.2		0	0.0	
不明	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	1	0.2	4段階評価
計	25	100.0	A	25	100.0	A	24	100.0	A	524	100.0	A	530	100.0	A	543	100.0	A	506	100.0	A	482	100.0	A	509	100.0	A

教師・児童・保護者の三者ともにA評価となり、子どもの自主性や主体性を育む授業づくりに対して高い評価が得られている。特に児童の「すすんで学習に取り組むことができます」の「そう思う」の割合が昨年度より上昇しており、主体的に学ぼうとする姿がより広がっていることがうかがえる。これは、日々の授業のなかで、教師が子どもの思いや考えを把握し、見通しをもって学習に取り組めるように支援してきたことの成果であると考えられる。また、話し合い活動や振り返りの充実、学習課題の工夫など、学年・学級での取り組みが子どもの学びの姿に確実に反映されている。

令和７年度　学校評価アンケート【三者集計】

※令和3年度以降は、Google Formsによるアンケート集約を行っています。

令和7年12月実施

３　いじめ、友だち関係について

設問	教師	子どもたちが仲間と仲よく過ごすことができる、いじめのない学級づくりをしている。
	児童	いじめをしないで、友だちを大切にしています。
	保護者	学校は、一人一人の子どもを大切にし、いじめに対して真摯に取り組んでいます。（R5　お子さんには、仲のよい友だちや仲間はいますか。）

	R7教師			R5教師			R4教師			R7児童			R6児童			R5児童			R7保護者			R6保護者			R5保護者		
	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価
そう思う	15	60.0	100.0	18	72.0	100.0	17	70.8	100.0	423	80.7	97.9	388	73.2	96.4	417	76.8	96.9	273	54.0	96.0	231	47.9	95.6	384	75.4	96.5
ある程度そう思う	10	40.0	マイナス評価	7	28.0	マイナス評価	7	29.2	マイナス評価	90	17.2	マイナス評価	123	23.2	マイナス評価	109	20.1	マイナス評価	213	42.1	マイナス評価	230	47.7	マイナス評価	107	21.0	マイナス評価
あまりそう思わない	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	9	1.7	2.1	17	3.2	3.6	13	2.4	3.1	19	3.8	4.0	17	3.5	4.4	18	3.5	3.5
そう思わない	0	0.0		0	0.0		0	0.0		2	0.4		2	0.4		4	0.7		1	0.2		4	0.8		0	0.0	
不明	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価
計	25	100.0	A	25	100.0	A	24	100.0	A	524	100.0	A	530	100.0	A	543	100.0	A	506	100.0	A	482	100.0	A	509	100.0	A

教師、児童、保護者の三者ともにA評価であり、いじめの未然防止や友だち関係づくりに向けた取組が着実に機能していることがうかがえる。児童のプラス評価は97%を超え、多くの子どもが友だちを大切にしながら生活できていると感じている。一方で、「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した児童も少数ながら存在するため、学級での対話活動や子ども同士の関係を深める活動などの取り組みを継続するとともに、生活アンケートや個別面談などを通して児童の思いをていねいに把握し、安心して過ごせる学級づくりを進めていきたい。

４　家庭(保護者)との連携、連絡について

設問	教師	保護者に学校の様子を知らせながら、家庭と連携している。
	児童	先生は、学校でのことや自分のよいところを、お家の人に伝えてくれます。
	保護者	学校とご家庭でお子さんを育てていると思います。（R5　お子さんには、何でも話ができる、相談できる先生はいますか。）

	R7教師			R6教師			R5教師			R7児童			R6児童			R5児童			R7保護者			R6保護者			R5保護者		
	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価
そう思う	17	68.0	100.0	19	76.0	100.0	15	62.5	100.0	380	72.5	93.7	324	61.1	89.2	363	66.9	91.2	357	70.6	97.4	328	74.2	98.4	220	43.2	90.6
ある程度そう思う	8	32.0	マイナス評価	6	24.0	マイナス評価	9	37.5	マイナス評価	111	21.2	マイナス評価	149	28.1	マイナス評価	132	24.3	マイナス評価	136	26.9	マイナス評価	107	24.2	マイナス評価	241	47.3	マイナス評価
あまりそう思わない	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	23	4.4	6.3	40	7.5	10.8	25	4.6	8.8	13	2.6	2.6	5	1.1	1.6	39	7.7	9.4
そう思わない	0	0.0		0	0.0		0	0.0		10	1.9		17	3.2		23	4.2		0	0.0		2	0.5		9	1.8	
不明	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価
計	25	100.0	A	25	100.0	A	24	100.0	A	524	100.0	A	530	100.0	A	543	100.0	A	506	100.0	A	442	100.0	A	509	100.0	A

教師、児童、保護者の三者ともにA評価であり、学校と家庭が連携しながら子どもを支えていることがうかがえる。児童のプラス評価は93.7%と高く、教師が学校での様子や子どものよいところを家庭に伝えていることが実感されている。保護者の評価も97%を超えており、学校と家庭が協力して子どもを育てているという認識がある。一方で、保護者の「そう思う」の割合はわずかに減少していたり、「あまりそう思わない」と感じる児童も一定数存在するため、引き続き家庭との情報共有をていねいに行い、安心して相談できる関係づくりを進めていきたい。

令和７年度　学校評価アンケート【三者集計】

※令和3年度以降は、Google Formsによるアンケート集約を行っています。

令和7年12月実施

５　子どもを大切にしているかについて

設問	教師	子どもの話を聞いたり日記をていねいに読んだりして、一人一人の子どもをとらえ、それをもとに学級づくり、授業づくりをしている。
	児童	先生は、話を聞いてくれたり日記を読んでくれたりして、自分のことを大切にしてくれます。
	保護者	学校は、一人一人の子どもの特徴をとらえ、大切にした学校、授業づくりをしていると思います。（R5　学校は、一人一人の子どもを大切にするなど、いじめに対して真摯に取り組んでいると思いますか。）

	R7教師			R6教師			R5教師			R7児童			R6児童			R5児童			R7保護者			R6保護者			R5保護者		
	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価
そう思う	12	48.0	100.0	19	76.0	96.0	17	70.8	100.0	419	80.0	95.6	371	70.0	91.7	401	73.8	94.7	291	57.5	95.1	228	51.6	95.5	256	50.3	93.1
ある程度そう思う	13	52.0	マイナス評価	5	20.0	マイナス評価	7	29.2	マイナス評価	82	15.6	マイナス評価	115	21.7	マイナス評価	113	20.8	マイナス評価	190	37.5	マイナス評価	194	43.9	マイナス評価	218	42.8	マイナス評価
あまりそう思わない	0	0.0	0.0	1	4.0	4.0	0	0.0	0.0	17	3.2	4.4	34	6.4	8.3	13	2.4	5.3	24	4.7	4.9	18	4.1	4.5	26	5.1	6.9
そう思わない	0	0.0		0	0.0		0	0.0		6	1.1		10	1.9		16	2.9		1	0.2		2	0.5		9	1.8	
不明	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価
計	25	100.0	A	25	100.0	A	24	100.0	A	524	100.0	A	530	100.0	A	543	100.0	A	506	100.0	A	442	100.0	A	509	100.0	A

教師、児童、保護者の三者ともにA評価であり、一人一人の子どもを大切にする姿勢が学校全体で共有されていることがうかがえる。児童のプラス評価は95.6%と高く、教師が話を聞いたり日記を読んだりするかかわりが、子どもに安心感として伝わっていると考えられる。保護者の評価も95%前後と高い水準にあり、学校が子どもの特徴を踏まえて指導していることが認められている。一方で、児童・保護者ともに一定数のマイナス評価が存在するため、引き続きていねいな対話や個別の支援を重ね、すべての児童が「大切にされている」と実感できる環境づくりを進めていきたい。

６　スクールカウンセラーやアイリスパートナーについて(連携、認知度)

設問	教師	スクールカウンセラーやアイリスパートナーと協力して子ども理解を図り、教育相談や個別支援に取り組んでいる。
	児童	学校では、必要なときにアイリスパートナーやスクールカウンセラーに相談でき、安心して生活することができます。
	保護者	スクールカウンセラーやアイリスパートナーに、育児や子どものことについて相談できることを知っています。

	R7教師			R6教師			R5教師			R7児童			R6児童			R5児童			R7保護者			R6保護者			R5保護者		
	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価
そう思う	16	64.0	96.0	17	68.0	100.0	18	75.0	100.0	334	63.7	91.2	349	65.8	88.3	350	64.5	87.8	356	70.4	94.5	347	72.0	94.2	370	72.7	94.5
ある程度そう思う	8	32.0	マイナス評価	8	32.0	マイナス評価	6	25.0	マイナス評価	144	27.5	マイナス評価	119	22.5	マイナス評価	127	23.4	マイナス評価	122	24.1	マイナス評価	107	22.2	マイナス評価	111	21.8	マイナス評価
あまりそう思わない	1	4.0	4.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	34	6.5	8.8	41	7.7	11.7	41	7.6	12.2	19	3.8	5.5	18	3.7	5.8	22	4.3	5.5
そう思わない	0	0.0		0	0.0		0	0.0		12	2.3		21	4.0		25	4.6		9	1.8		10	2.1		6	1.2	
不明	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価
計	25	100.0	A	25	100.0	A	24	100.0	A	524	100.0	A	530	100.0	A	543	100.0	A	506	100.0	A	482	100.0	A	509	100.0	A

教師、児童、保護者の三者ともにA評価であり、スクールカウンセラーやアイリスパートナーの存在が学校生活の安心感につながっていることがうかがえる。児童のプラス評価は91.2%と高く、必要なときに相談できる環境が整っていると感じている。保護者の評価も94%を超えており、相談先としての認知が広がっている。一方で、児童の約8%が「そう思わない」「あまりそう思わない」と回答しているため、アイリス通信、校内掲示、担任からの紹介などで引き続き相談体制の周知を図り、安心して支援につながれる環境づくりを進めていきたい。

令和７年度　学校評価アンケート【三者集計】

※令和3年度以降は、Google Formsによるアンケート集約を行っています。

令和7年12月実施

7　子どもたちの「聴く・話す」力について

設問		
	教師	授業やスピーチによって、子どもたちの「話す・聴く」力が育っている。
	児童	授業やスピーチで、自分の話をしたり、友だちの話を聞いたりすることができます。
	保護者	お子さんは、授業やスピーチにより、「聴く・話す」力が育っていると思います。

	R7教師			R6教師			R5教師			R7児童			R6児童			R5児童			R7保護者			R6保護者			R5保護者		
	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価
そう思う	17	68.0	100.0	15	60.0	100.0	16	66.7	100.0	400	76.3	97.3	366	69.1	94.9	379	69.8	95.4	279	55.1	92.3	241	50.0	92.1	253	49.7	93.7
ある程度そう思う	8	32.0	マイナス評価	10	40.0	マイナス評価	8	33.3	マイナス評価	110	21.0	マイナス評価	137	25.8	マイナス評価	139	25.6	マイナス評価	188	37.2	マイナス評価	203	42.1	マイナス評価	224	44.0	マイナス評価
あまりそう思わない	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	8	1.5	2.7	20	3.8	5.1	15	2.8	4.6	34	6.7	7.7	33	6.8	7.9	27	5.3	6.3
そう思わない	0	0.0		0	0.0		0	0.0		6	1.1		7	1.3		10	1.8		5	1.0		5	1.0		5	1.0	
不明	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価
計	25	100.0	A	25	100.0	A	24	100.0	A	524	100.0	A	530	100.0	A	543	100.0	A	506	100.0	A	482	100.0	A	509	100.0	A

教師、児童、保護者の三者ともにA評価であり、朝のスピーチや授業を通して「聴く・話す」力が着実に育っていることがうかがえる。児童のプラス評価は97.3%と非常に高く、自分の考えを話したり友だちの話を聞いたりする姿が広がっていると考えられる。保護者の評価も92%を超えており、子どもの成長を実感しているとうかがえる。今後も継続して、子どもたちの「聴く・話す」力を育んでいきたい。

8　基礎的な知識・技能の定着について

設問		
	教師	算数タイムや授業などによって、子どもに基礎的な知識・技能の定着を図っている。
	児童	算数タイムや授業などで、読み・書き・計算など基本的なことがわかるようになっています。
	保護者	学校は、算数タイムや授業などによって、子どもに基礎的な知識・技能の定着を図っていると思います。

	R7教師			R6教師			R5教師			R7児童			R6児童			R5児童			R7保護者			R6保護者			R5保護者		
	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価
そう思う	6	24.0	92.0	12	48.0	92.0	7	29.2	95.9	386	73.7	96.0	359	67.7	93.2	390	71.8	95.9	164	32.4	82.0	158	32.8	82.4	153	30.1	83.5
ある程度そう思う	17	68.0	マイナス評価	11	44.0	マイナス評価	16	66.7	マイナス評価	117	22.3	マイナス評価	135	25.5	マイナス評価	131	24.1	マイナス評価	251	49.6	マイナス評価	239	49.6	マイナス評価	272	53.4	マイナス評価
あまりそう思わない	2	8.0	8.0	2	8.0	8.0	1	4.2	4.2	18	3.4	4.0	26	4.9	6.8	14	2.6	4.1	82	16.2	18.0	68	14.1	17.6	75	14.7	16.5
そう思わない	0	0.0		0	0.0		0	0.0		3	0.6		10	1.9		8	1.5		9	1.8		17	3.5		9	1.8	
不明	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価
計	25	100.0	A	25	100.0	A	24	100.0	A	524	100.0	A	530	100.0	A	543	100.0	A	506	100.0	B	482	100.0	B	509	100.0	B

児童のプラス評価は96.0%と高く、基礎的な知識・技能が定着していることがうかがえる。教師については「あまりそう思わない」の割合がやや高く、基礎的な知識・技能の定着を図るために、さらなる工夫が必要だと感じていることがうかがえる。保護者については，全体のプラス評価は8割を超えているものの，「あまりそう思わない」の割合は増えている。算数タイムや基礎的な知識・技能の定着を図る授業を公開したりするなど、学校の取り組みを家庭に発信していくことが重要である。

令和７年度　学校評価アンケート【三者集計】

※令和3年度以降は、Google Formsによるアンケート集約を行っています。

令和7年12月実施

９ 子どもの問題解決力について

設問	教師	授業によって、子どもの問題解決力が育まれている。
	児童	授業では、自分で考え、友だちとかかわって話すようにしています。
	保護者	お子さんは、授業を通し、問題に対して自分なりに解決する力が育っていると思います。

	R7教師			R6教師			R5教師			R7児童			R6児童			R5児童			R7保護者			R6保護者			R5保護者		
	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価
そう思う	15	60.0	100.0	21	84.0	100.0	16	66.7	100.0	377	71.9	95.0	315	59.4	88.7	315	58.0	91.2	242	47.8	93.9	223	46.3	93.4	229	45.0	93.7
ある程度そう思う	10	40.0	マイナス評価	4	16.0	マイナス評価	8	33.3	マイナス評価	121	23.1	マイナス評価	155	29.2	マイナス評価	180	33.1	マイナス評価	233	46.0	マイナス評価	227	47.1	マイナス評価	248	48.7	マイナス評価
あまりそう思わない	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	19	3.6	5.0	47	8.9	11.3	35	6.4	8.8	30	5.9	6.1	29	6.0	6.6	31	6.1	6.1
そう思わない	0	0.0		0	0.0		0	0.0		7	1.3		13	2.5		13	2.4		1	0.2		3	0.6		0	0.0	
不明	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	1	0.2	4段階評価
計	25	100.0	A	25	100.0	A	24	100.0	A	524	100.0	A	530	100.0	A	543	100.0	A	506	100.0	A	482	100.0	A	509	100.0	A

教師、児童、保護者の三者ともにA評価であり、授業を通して子どもの問題解決力が着実に育っていることがうかがえる。教師の評価は今年度も100%が肯定的であり、授業者が授業において問題解決力の育成を意識し、継続的に取り組んできたことが、結果に結びついていると考えられる。児童のプラス評価は95.0%と高く、自分で考え、友だちとかかわりながら学ぶ姿が定着していると考えられる。保護者の評価も93%台で安定しており、子どもの成長を実感しているとうかがえる。

１０　ICT機器の適切な使い方について（令和3年度より新設項目）

設問	教師	タブレットの使い方のルールを守り、適切に使えるように取り組んでいる。
	児童	先生は、タブレットの使い方のルールを考えるようにしてくれます。
	保護者	タブレットの使い方のルールを守り、適切に使えるようになっていると思います。

	R7教師			R6教師			R5教師			R7児童			R6児童			R5児童			R7保護者			R6保護者			R5保護者		
	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価
そう思う	9	36.0	92.0	9	36.0	88.0	9	37.5	83.3	444	84.7	97.5	386	72.8	93.0	413	76.1	93.9	206	40.7	86.4	192	39.8	84.9	234	46.0	89.4
ある程度そう思う	14	56.0	マイナス評価	13	52.0	マイナス評価	11	45.8	マイナス評価	67	12.8	マイナス評価	107	20.2	マイナス評価	97	17.9	マイナス評価	231	45.7	マイナス評価	217	45.0	マイナス評価	221	43.4	マイナス評価
あまりそう思わない	2	8.0	8.0	3	12.0	12.0	4	16.7	16.7	9	1.7	2.5	23	4.3	7.0	23	4.2	6.1	51	10.1	13.6	60	12.4	15.1	46	9.0	10.6
そう思わない	0	0.0		0	0.0		0	0.0		4	0.8		14	2.6		10	1.8		18	3.6		13	2.7		8	1.6	
不明	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価
計	25	100.0	A	25	100.0	A	24	100.0	B	524	100.0	A	530	100.0	A	543	100.0	A	506	100.0	A	482	100.0	B	509	100.0	A

教師・児童・保護者の三者ともにA評価であり、タブレットの適切な使い方に関する指導が一定程度浸透していることがうかがえる。児童のプラス評価は97.5%と非常に高く、日常的にルールを意識しながら活用できていると考えられる。一方で、教師のプラス評価は92.0%、保護者は86.4%とやや低く、保護者では「あまりそう思わない」「そう思わない」と回答した割合が15.1%存在しており、家庭では使用時間やオンライン上でのトラブルへの不安が残っている可能性がある。教師・児童・保護者の三者で学べる情報モラル教室を実施し、ICT機器の適切な使い方について学校と家庭の指導をそろえていきたい。

令和７年度　学校評価アンケート【三者集計】

※令和3年度以降は、Google Formsによるアンケート集約を行っています。

令和7年12月実施

11　タブレットやパソコンの活用について（令和3年度より新設項目）

設問	教師	タブレットを用いて、自分で学習を進めたり、調べたことを生活に生かそうとしたりできるようにしている。
	児童	タブレットを使って、自分で学習を進めたり、知りたいことや疑問に思ったことを調べたりするようにしています。
	保護者	お子さんは、タブレットを用いて、自分で学習を進めたり、調べたことを生活に生かそうとしたりしていると思います。

	R7教師			R6教師			R5教師			R7児童			R6児童			R5児童			R7保護者			R6保護者			R5保護者		
	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価
そう思う	9	36.0	92.0	15	60.0	96.0	13	54.2	95.9	362	69.1	93.3	329	62.1	90.2	319	58.7	83.8	192	37.9	78.3	185	38.4	80.3	190	37.3	81.1
ある程度そう思う	14	56.0	マイナス評価	9	36.0	マイナス評価	10	41.7	マイナス評価	127	24.2	マイナス評価	149	28.1	マイナス評価	136	25.0	マイナス評価	204	40.3	マイナス評価	202	41.9	マイナス評価	223	43.8	マイナス評価
あまりそう思わない	2	8.0	8.0	1	4.0	4.0	1	4.2	4.2	26	5.0	6.7	40	7.5	9.8	59	10.9	16.2	95	18.8	21.7	85	17.6	19.7	87	17.1	18.9
そう思わない	0	0.0		0	0.0		0	0.0		9	1.7		12	2.3		29	5.3		15	3.0		10	2.1		9	1.8	
不明	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価
計	25	100.0	A	25	100.0	A	24	100.0	A	524	100.0	A	530	100.0	A	543	100.0	B	506	100.0	B	482	100.0	B	509	100.0	B

児童のプラス評価は93.3%と高く、自分で調べたり学習を進めたりする姿が定着している。一方で、保護者のプラス評価は78.3%にとどまり、マイナス評価が増加している点は課題である。今後は、学校でのICT活用の具体的な成果や、家庭での活かし方をていねいに発信し、学校と家庭で共通理解を深めていくことが求められる。児童が学校で身につけた調べる力や学習の進め方が、家庭生活にも自然に生かされていくよう、継続的な情報共有を大切にしていきたい。

12　給食、食育を通してのマナーや栄養、食事を作る人への感謝について

設問	教師	給食や食育を通して、マナーや栄養、食事を作る人への感謝の気持ちが育ってきている。
	児童	給食の時間は、作ってくれている人への感謝の気持ちをもって、苦手なものも食べるように努力しています。
	保護者	お子さんは、給食や食育を通して、マナーや栄養、食事を作る人への感謝の気持ちが育っていると思います。

	R7教師			R6教師			R5教師			R7児童			R6児童			R5児童			R7保護者			R6保護者			R5保護者		
	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価
そう思う	13	52.0	96.0	9	36.0	96.0	9	37.5	91.7	362	69.1	92.6	371	70.0	91.1	411	75.7	93.4	261	51.6	93.7	237	49.2	93.2	243	47.7	92.7
ある程度そう思う	11	44.0	マイナス評価	15	60.0	マイナス評価	13	54.2	マイナス評価	123	23.5	マイナス評価	112	21.1	マイナス評価	96	17.7	マイナス評価	213	42.1	マイナス評価	212	44.0	マイナス評価	229	45.0	マイナス評価
あまりそう思わない	1	4.0	4.0	1	4.0	4.0	2	8.3	8.3	28	5.3	7.4	30	5.7	8.9	27	5.0	6.6	30	5.9	6.3	30	6.2	6.8	32	6.3	7.3
そう思わない	0	0.0		0	0.0		0	0.0		11	2.1		17	3.2		9	1.7		2	0.4		3	0.6		5	1.0	
不明	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価
計	25	100.0	A	25	100.0	A	24	100.0	A	524	100.0	A	530	100.0	A	543	100.0	A	506	100.0	A	482	100.0	A	509	100.0	A

教師、児童、保護者の三者ともにA評価であり、給食や食育を通してマナーや栄養への理解、食事を作る人への感謝の気持ちが育っていることがうかがえる。児童のプラス評価は92.6%と高く、苦手なものにも挑戦しようとする姿が見られる。特に、栄養教諭が給食の献立を校内に掲示したり、ホームページやインスタグラムで発信するなど、食材や調理の工夫、調理員の仕事について伝える機会が増えたことが、児童・保護者双方の理解を深める要因となっている。今後も栄養教諭と連携しながら、給食指導や食育の機会をさらに充実させ、すべての児童が食に対する理解と感謝の気持ちを深められるよう取り組んでいきたい。

令和７年度　学校評価アンケート【三者集計】

※令和3年度以降は、Google Formsによるアンケート集約を行っています。

令和7年12月実施

13　学校行事について

設問		
	教師	運動会やお別れ音楽会などの行事は、子どもたちの成長につながっている。
	児童	運動会やお別れ音楽会などの行事から、多くのことを学ぶことができます。
	保護者	運動会やお別れ音楽会などの行事は、子どもの成長につながっていると思います。

	R7教師			R6教師			R5教師			R7児童			R6児童			R5児童			R7保護者			R6保護者			R5保護者		
	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価
そう思う	23	92.0	100.0	21	84.0	100.0	19	79.2	100.0	400	76.3	94.7	396	74.7	93.8	397	73.1	93.0	433	85.6	99.6	413	85.7	98.5	443	87.0	98.4
ある程度そう思う	2	8.0	マイナス評価	4	16.0	マイナス評価	5	20.8	マイナス評価	96	18.3	マイナス評価	101	19.1	マイナス評価	108	19.9	マイナス評価	71	14.0	マイナス評価	62	12.9	マイナス評価	58	11.4	マイナス評価
あまりそう思わない	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	21	4.0	5.3	24	4.5	6.2	24	4.4	7.0	2	0.4	0.4	7	1.5	1.5	7	1.4	1.4
そう思わない	0	0.0		0	0.0		0	0.0		7	1.3		9	1.7		14	2.6		0	0.0		0	0.0		0	0.0	
不明	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	1	0.2	4段階評価
計	25	100.0	A	25	100.0	A	24	100.0	A	524	100.0	A	530	100.0	A	543	100.0	A	506	100.0	A	482	100.0	A	509	100.0	A

教師、児童、保護者の三者ともにA評価であり、運動会やお別れ音楽会などの学校行事が子どもたちの成長につながっていることがうかがえる。児童のプラス評価は94.7%と高く、行事を通して多くの学びを得ていることがわかる。特に、行事後に振り返りの時間を設け、子どもたちが自分の成長や仲間のよさを伝える機会をつくったことが、行事の達成感につながっていると考えられる。保護者の評価も99.6%と非常に高く、行事が子どもの成長を実感できる場となっている。引き続き振り返りの時間を大切にし、全児童が達成感をもてる行事づくりを進めていきたい。

14　子どもの病気やけがなど、健康・安全面への配慮や注意について

設問		
	教師	子どもの病気やけがなど、健康・安全面に配慮、注意をはらっている。
	児童	先生は、体の調子が悪いときやけがをしたときに、気づいて声をかけてくれます。
	保護者	学校は、子どもの安全や健康面を配慮しながら対応していると思います。

	R7教師			R6教師			R5教師			R7児童			R6児童			R5児童			R7保護者			R6保護者			R5保護者		
	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価
そう思う	15	60.0	100.0	22	88.0	100.0	14	58.3	100.0	365	69.7	92.0	345	65.1	89.8	367	67.6	89.9	341	67.4	96.8	336	69.7	97.3	374	73.5	98.6
ある程度そう思う	10	40.0	マイナス評価	3	12.0	マイナス評価	10	41.7	マイナス評価	117	22.3	マイナス評価	131	24.7	マイナス評価	121	22.3	マイナス評価	149	29.4	マイナス評価	133	27.6	マイナス評価	128	25.1	マイナス評価
あまりそう思わない	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	33	6.3	8.0	32	6.0	10.2	38	7.0	10.1	15	3.0	3.2	11	2.3	2.7	5	1.0	1.4
そう思わない	0	0.0		0	0.0		0	0.0		9	1.7		22	4.2		17	3.1		1	0.2		2	0.4		2	0.4	
不明	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価
計	25	100.0	A	25	100.0	A	24	100.0	A	524	100.0	A	530	100.0	A	543	100.0	A	506	100.0	A	482	100.0	A	509	100.0	A

教師、児童、保護者の三者ともにA評価であり、学校が子どもの健康や安全に十分配慮していることがうかがえる。児童のプラス評価は92.0%と高く、体調不良やけがに気づいて声をかけてもらえる安心感があると考えられる。特に、日常的に養護教諭が教室や保健室での子どもの様子をていねいに見取り、役職や担任と連携して対応していることが、児童・保護者双方の高い評価につながっている。今後も、子どもの体調に気を配って意識的に児童への声かけを行ったり、引き続き家庭との連絡を密にしたりすることで、児童と家庭からの信頼を保てるようにしていきたい。

令和７年度　学校評価アンケート【三者集計】

※令和3年度以降は、Google Formsによるアンケート集約を行っています。

令和7年12月実施

15　あいさつなど基本的な生活習慣、規範意識について

設問	教師	あいさつをする、時間やルールを守る、物を大切にするなどの基本的な生活習慣、規範意識が身につくように指導している。
	児童	あいさつ、時間やルールを守る、物を大切にするようにしています。
	保護者	お子さんは、ルールやマナーを意識しながら登下校をしたり、学校生活を送っていると思います。

	R7教師			R6教師			R5教師			R7児童			R6児童			R5児童			R7保護者			R6保護者			R5保護者		
	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価
そう思う	12	48.0	100.0	15	60.0	92.0	13	54.2	100.0	397	75.8	96.9	348	65.7	96.6	392	72.2	94.1	292	57.7	98.2	270	56.0	97.3	298	58.5	97.6
ある程度そう思う	13	52.0	マイナス評価	8	32.0	マイナス評価	11	45.8	マイナス評価	111	21.2	マイナス評価	164	30.9	マイナス評価	119	21.9	マイナス評価	205	40.5	マイナス評価	199	41.3	マイナス評価	199	39.1	マイナス評価
あまりそう思わない	0	0.0	0.0	2	8.0	8.0	0	0.0	0.0	12	2.3	3.1	16	3.0	3.4	26	4.8	5.9	9	1.8	1.8	11	2.3	2.7	12	2.4	2.4
そう思わない	0	0.0		0	0.0		0	0.0		4	0.8		2	0.4		6	1.1		0	0.0		2	0.4		0	0.0	
不明	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価
計	25	100.0	A	25	100.0	A	24	100.0	A	524	100.0	A	530	100.0	A	543	100.0	A	506	100.0	A	482	100.0	A	509	100.0	A

教師、児童、保護者の三者ともにA評価であり、あいさつや時間を守ること、物を大切にすることなどの基本的な生活習慣や規範意識が着実に育っていることがうかがえる。児童のプラス評価は96.9%と高く、日常生活の中でルールやマナーを意識して行動できていると考えられる。保護者の評価も98%を超えており、登下校を含めた生活全体での成長が実感されている。一方で、自力登下校においては、交通ルールの徹底や歩行中の安全意識など、個々の家庭によって差が見られる場面もある。今後も自力登下校を家庭に促しつつ、通安だよりを活用した児童への指導を行い、すべての児童が登下校のルールやマナーなど、社会性を身につけられるようにしたい。

16　清掃指導について

設問	教師	そうじ時間中に見まわる、一緒にそうじに取り組むなど清掃指導をしている。
	児童	そうじにまじめに取り組んで、道具の片づけもしています。
	保護者	11月の親子清掃の様子などをみて、お子さんは、学校生活において、そうじがきちんとできていると思います。（R5　お子さんは、家庭生活において身の回りの整理、整頓ができていると思いますか。）

	R7教師			R6教師			R5教師			R7児童			R6児童			R5児童			R7保護者			R6保護者			R5保護者		
	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価
そう思う	15	60.0	96.0	17	68.0	96.0	13	54.2	95.9	378	72.1	96.8	363	68.5	95.5	399	73.5	95.0	265	52.4	92.3	188	42.5	91.2	222	43.6	77.8
ある程度そう思う	9	36.0	マイナス評価	7	28.0	マイナス評価	10	41.7	マイナス評価	129	24.6	マイナス評価	143	27.0	マイナス評価	117	21.5	マイナス評価	202	39.9	マイナス評価	215	48.6	マイナス評価	174	34.2	マイナス評価
あまりそう思わない	1	4.0	4.0	1	4.0	4.0	1	4.2	4.2	10	1.9	3.2	19	3.6	4.5	17	3.1	5.0	36	7.1	7.7	37	8.4	8.8	46	9.0	22.2
そう思わない	0	0.0		0	0.0		0	0.0		7	1.3		5	0.9		10	1.8		3	0.6		2	0.5		67	13.2	
不明	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価
計	25	100.0	A	25	100.0	A	24	100.0	A	524	100.0	A	530	100.0	A	543	100.0	A	506	100.0	A	442	100.0	A	509	100.0	B

教師、児童、保護者の三者ともにA評価であり、清掃指導が日常的に定着していることがうかがえる。児童のプラス評価は96.8%と高く、休み時間に落ち葉を集める児童の姿も見られた。また、今年度の親子清掃では、机の移動や棚・窓の拭き掃除など、家庭では見られにくいていねいに掃除をする姿が見られ、保護者からも成長を実感する声が寄せられた。こうした学校と家庭が協働する機会が、児童の清掃に対する意識をさらに高める要因となると考える。

令和７年度　学校評価アンケート【三者集計】

※令和3年度以降は、Google Formsによるアンケート集約を行っています。

令和7年12月実施

17　共生教育について（令和3年度より新設項目）

設問		
	教師	障害に対する理解を深め、障害の有無にかかわらず、誰とでも分け隔てなく接することができるように指導している。
	児童	年齢が違う人、性別が違う人、生まれつき病気がある人など、どんな人に対しても優しく、思いやりをもって接することができます。
	保護者	お子さんは、障害について理解し、誰に対しても分け隔てなく接することができていると思います。

	R7教師			R6教師			R5教師			R7児童			R6児童			R5児童			R7保護者			R6保護者			R5保護者		
	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価
そう思う	19	76.0	96.0	19	76.0	92.0	14	58.3	95.8	372	71.0	96.4	361	68.1	96.4	375	69.1	94.7	284	56.1	97.0	225	46.7	97.1	233	45.8	96.7
ある程度そう思う	5	20.0	マイナス評価	4	16.0	マイナス評価	9	37.5	マイナス評価	133	25.4	マイナス評価	150	28.3	マイナス評価	139	25.6	マイナス評価	207	40.9	マイナス評価	243	50.4	マイナス評価	259	50.9	マイナス評価
あまりそう思わない	1	4.0	4.0	2	8.0	8.0	1	4.2	4.2	16	3.1	3.6	15	2.8	3.6	20	3.7	5.3	14	2.8	3.0	13	2.7	2.9	17	3.3	3.3
そう思わない	0	0.0		0	0.0		0	0.0		3	0.6		4	0.8		9	1.7		1	0.2		1	0.2		0	0.0	
不明	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価
計	25	100.0	A	25	100.0	A	24	100.0	A	524	100.0	A	530	100.0	A	543	100.0	A	506	100.0	A	482	100.0	A	509	100.0	A

教師、児童、保護者の三者ともにA評価であり、共生教育の取組が着実に広がっている。児童のプラス評価は96.4%と高く、多様な相手に思いやりをもって接しようとする姿勢が育っている。今年も、教師が附属特別支援学校の研究会や給食に参加したり、全学年で同校の運動会予行を見学したりするなど、具体的な交流の機会を設けた。こうした体験が、児童が共生社会を身近に感じるきっかけとなっている。今後も、本校の特色である附属特別支援学校との連携を軸に、学校全体で共生について考える機会を継続していくことが求められる。

18　ホームページ、学年・学級だよりなどの情報発信について

設問		
	教師	ホームページや学級だよりなどで、校内のできごとを保護者に知らせている。
	児童	先生は、附小だより、学級だよりを出してくれます。
	保護者	学校は、ホームページや附小だより、学級だよりなどで学校内のできごとを知らせていると思います。

	R7教師			R6教師			R5教師			R7児童			R6児童			R5児童			R7保護者			R6保護者			R5保護者		
	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価
そう思う	18	72.0	96.0	16	64.0	100.0	17	70.8	100.0	491	93.7	99.0	468	88.3	97.7	493	91.0	98.7	362	71.5	98.8	326	67.6	98.5	378	74.3	98.6
ある程度そう思う	6	24.0	マイナス評価	9	36.0	マイナス評価	7	29.2	マイナス評価	28	5.3	マイナス評価	50	9.4	マイナス評価	42	7.7	マイナス評価	138	27.3	マイナス評価	149	30.9	マイナス評価	124	24.4	マイナス評価
あまりそう思わない	1	4.0	4.0	0	0.0	0.0	0	0.0	0.0	2	0.4	1.0	7	1.3	2.3	0	0.0	1.3	4	0.8	1.2	4	0.8	1.5	4	0.8	1.4
そう思わない	0	0.0		0	0.0		0	0.0		3	0.6		5	0.9		7	1.3		2	0.4		3	0.6		3	0.6	
不明	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価
計	25	100.0	A	25	100.0	A	24	100.0	A	524	100.0	A	530	100.0	A	542	100.0	A	506	100.0	A	482	100.0	A	509	100.0	A

教師、児童、保護者の三者ともにA評価である。今年度は、新たにインスタグラムでの情報発信を始め、日々の学校生活の様子を写真とともにタイムリーに届けられるようになった。これにより、保護者から「学校の雰囲気がより伝わるようになった」という声も聞かれ、情報発信の幅が広がった。保護者の評価も98%前後と非常に高く、ホームページや各種たよりを通して学校の様子が分かりやすく伝わっているといえる。今後も、学校生活の様子をわかりやすく、温かみをもって伝える情報発信を継続していきたい。

令和７年度　学校評価アンケート【三者集計】

※令和3年度以降は、Google Formsによるアンケート集約を行っています。

令和7年12月実施

19　子どもの命や安全を守るために危機管理意識について

設問	教師	附属小は、子どもの命や安全を守るために危機管理意識をもって指導している。
	児童	先生は、登下校のマナーや、地震や不審者が来たときの避難や安全について教えてくれます。
	保護者	学校は、安全な登下校や防災意識の向上に努める指導をしていると思います。

	R7教師			R6教師			R5教師			R7児童			R6児童			R5児童			R7保護者			R6保護者			R5保護者		
	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価
そう思う	16	64.0	96.0	20	80.0	96.0	16	66.7	100.0	446	85.1	96.9	420	79.2	96.4	455	83.8	96.3	278	54.9	94.3	256	53.1	95.4	278	54.6	95.1
ある程度そう思う	8	32.0	マイナス評価	4	16.0	マイナス評価	8	33.3	マイナス評価	62	11.8	マイナス評価	91	17.2	マイナス評価	68	12.5	マイナス評価	199	39.3	マイナス評価	204	42.3	マイナス評価	206	40.5	マイナス評価
あまりそう思わない	1	4.0	4.0	1	4.0	4.0	0	0.0	0.0	13	2.5	3.1	16	3.0	3.6	11	2.0	3.7	27	5.3	5.7	17	3.5	4.6	23	4.5	4.9
そう思わない	0	0.0		0	0.0		0	0.0		3	0.6		3	0.6		9	1.7		2	0.4		5	1.0		2	0.4	
不明	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価
計	25	100.0	A	25	100.0	A	24	100.0	A	524	100.0	A	530	100.0	A	543	100.0	A	506	100.0	A	482	100.0	A	509	100.0	A

教師、児童、保護者の三者ともにA評価であり、学校が危機管理意識をもって安全指導に取り組んでいることがわかる。通学安全部や一家庭一支援による登下校の見守り当番の実施や、職員で共通理解を図りながら実施した避難訓練（火災や地震、不審者対応訓練、引き取り訓練）などの成果が結果につながっている。今後も訓練や指導を継続し、児童が自ら安全を守る力を高められるよう取り組むとともに、子どもの防災意識を高める指導や教師の危機管理意識を高める研修などの方策を講じていく必要がある。

20　学校評価をもとにした、学校運営の改善点について

設問	教師	附属小は、学校評価をもとにした改善点を点検しながら、よりよい学校運営をめざしている。
	児童	先生は、わたしたちのことを考えながら、よりよい学校になるようにしてくれています。
	保護者	学校は、学校評価をもとにした改善点を点検しながら、開かれた信頼できる学校運営をめざしていると思います。

	R7教師			R6教師			R5教師			R7児童			R6児童			R5児童			R7保護者			R6保護者			R5保護者		
	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価	度数	相対度数(%)	プラス評価
そう思う	16	64.0	96.0	20	80.0	100.0	16	66.7	95.9	438	83.6	95.8	407	76.8	94.5	431	79.4	94.3	303	59.9	94.3	251	52.1	96.7	300	58.9	96.5
ある程度そう思う	8	32.0	マイナス評価	5	20.0	マイナス評価	7	29.2	マイナス評価	64	12.2	マイナス評価	94	17.7	マイナス評価	81	14.9	マイナス評価	174	34.4	マイナス評価	215	44.6	マイナス評価	191	37.5	マイナス評価
あまりそう思わない	1	4.0	4.0	0	0.0	0.0	1	4.1	4.1	15	2.9	4.2	21	4.0	5.5	16	2.9	5.7	26	5.1	5.7	11	2.3	3.3	15	2.9	3.5
そう思わない	0	0.0		0	0.0		0	0.0		7	1.3		8	1.5		15	2.8		3	0.6		5	1.0		3	0.6	
不明	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価	0	0.0	4段階評価
計	25	100.0	A	25	100.0	A	24	100.0	A	524	100.0	A	530	100.0	A	543	100.0	A	506	100.0	A	482	100.0	A	509	100.0	A

教師、児童、保護者の三者ともにA評価である。教師一人一人が、児童の思いや保護者の願いを踏まえて、学校をよりよくしていこうという熱意や誇りをもって教育活動に取り組み、教師と児童・保護者の3者の関係性を構築してきたことがプラス評価からうかがえる。一方で、「そう思わない」や「あまりそう思わない」と感じている児童と保護者がいることを忘れず、この学校評価をもとに、さらに改善して学校運営に取り組んでいきたい。